

令和6年度 学校評価報告書

学校番号(中26) 長崎市立滑石中学校

1 教育目標

「自ら進んで学び、社会性と高い志をもった生徒の育成」

2 学校経営方針

- (1) 職員の英知を結集し、家庭地域との連携を深め、信頼される学校づくりに取り組む。(学校力)
- (2) 全職員が、生徒の人格形成に直接関わる崇高な仕事に取り組んでいる自覚と責任をもって教育活動に取り組む。(教師力)
- (3) 職員一人一人が連携を密にして(輪と話と和)教育活動に取り組む。(組織力)
- (4) 学級や学年が一人一人の生徒にとって存在感のある自己実現の場となるために、互いを支え合い認め合う学級づくり学年づくりに取り組む。(支持的風土)

3 重点目標

- (1) 心豊かで、強い志をもつ生徒の育成【G1-2】
- (2) 粘り強く学び、確かな学力を身につけた生徒の育成【G1-1】
- (3) たくましい心と体をもつ生徒の育成【G1-2】
- (4) 地域を愛し、地域に貢献できる生徒の育成【G1-3】
- (5) 信頼される学校づくり【G1-4】

4 自己評価

領域	項 目	質 問 内 容	アンケート結果			分析及び改善策
			(肯定的割合・%)			
			児 童 生 徒	保護者	教職員	
学校経営	教 育 目 標	教育目標を達成している	94	83	100	○生徒や教職員は、学校の 雰囲気の向上を感じてい る。
	学 校 の 雰 囲 気	明るく楽しい雰囲気である	96	92	100	
	組 織 運 営	校務分掌は責任体制が明確で、適切に機能している			95	
	業 務 の 改 善	校務の縮減・効率化等、業務の改善を推進している			86	
心の教育	生活・生徒指導	ルールやマナーを身に付けている	93	82	86	○全体的には評価が上昇して いる。 ○中学校に慣れ、ルールやマ ナーが守れない生徒が出てき た。 ○挨拶について、生徒の意識 の高まりがみられるが、保護 者、教職員では下がっており、 生徒との意識の違いがある。 生徒に客観的な見方をさせたい。 ○いじめの早期発見や迅速な 対応、人権教育の推進について 保護者へも伝わっている。 ○教育的ニーズへの指導に関 しては、職員は努力している が、保護者のニーズを把握で きていないと思われる。
		挨拶をよくしている	93	71	86	
		「あ・は・は運動」を知っている(小学校のみ)				
		教職員は悩みや相談に親身に対応している	94	88	90	
	いじめ防止対策	学校はいじめ防止のための対策をとっている	84	79	90	
	人 権 教 育	生命や人権を尊重しようとする心が育っている	91	84	100	
	平 和 教 育	平和の大切さを感じ、その思いを発信しようとしている	91	82	95	
	特別支援教育	学校は教育的ニーズに応じた教育を行っている	87	81	95	
			96	80	95	
確かな学力	特 色 あ る 学 校 づ く り	伝統や校風、地域の実態に即した教育を行っている	95	78	95	○家庭学習は、生徒、保護者の意 識が向上しているものの、とても 低い。今後も手立てを考えてい く。 ○キュビナの強調月間の取組で は、学校の目標を達成することが できるなど、生徒や職員の意識の 向上が認められる。一方、保護者 のポイントが低いのは、家庭学習 での生徒のタブレットの使用場面 があまり見られない家庭が多かつ たことや、学校からの課題の周知 や保護者も巻き込みでの盛り上げ の不足なども考えられる。 ○キャリア教育は、3学期に実施 したことも多く、結果に反映でき なかったと思われる。
	学 習 指 導 ・ 教 育 課 程	わかりやすい授業を行っている	94	77	100	
		家庭学習の習慣が身に付いている	68	55	68	
	キャリア教育	将来の自立に向けて適切に指導している	68	55	68	
		長崎のまちや自分の住んでいる地域が好きである	89			

健やかな体	保 健 ・ 衛 生	衛生管理に努め、健康に関する教育を行っている	93	94	95	○生徒、保護者、職員三者の評価がいずれも高いことが特徴である。 ○早寝・早起き・朝ごはんの習慣については、どこに課題があるか調査し、今後も啓発が必要である。
	体 力 向 上	早寝・早起き・朝ごはん(基本的生活習慣)が身に付いている	84	89	95	
		体力向上に努めている	93	93	95	
	食 育	食に関する教育活動を行っている	95	95	100	
信頼される学校	安 全 管 理	児童生徒の安全に気を配っている	94	96	100	○安全管理は環境整備と関連があると思われる。整備不足を今後も補っていききたい。 ○職員研修に関する職員の意識が高いところは、今後も継続していききたい。全員研究授業の継続と、保健面やGIGA関係などの研修を充実させた結果が表れた。
	情 報 提 供	学校の状況は通信やHP等で知ることができる	94	93	95	
	P T A ・ 地 域 と の 連 携	学校はPTAや地域との連携がとれている	93	92	90	
	職 員 資 質 向 上	研修が充実し、資質が向上している			100	
教育環境	環 境 整 備	教育環境が充実し、整備されている	63	67	95	○古い校舎ではあるが、壁の塗装や床の修繕、草木の手入れなど、今年度も整備を充実させた。清掃活動や安全点検の充実、校舎の営繕、維持管理などを今後も推進していききたい。 ○無言清掃等により、環境整備に対する生徒の意識は向上した。
		学校は、清掃が行き届いている	93	79	70	
	職 場 環 境	学校は働きやすい職場づくりに積極的に取り組んでいる			86	

5 自己評価のまとめ(成果・課題・対策等)

【成果】

- ①学校経営全般、心の教育、健やかな体、信頼される学校の肯定的評価が高いレベルで上昇した。
- ②8月より12月の評価が上昇した。これは、生徒、保護者、職員の意識の向上が見られたことや、教育実践の効果を肯定的に感じている生徒、保護者、職員の割合が高くなったことを示す結果であり、今後の継続や向上が期待できる。
- ③環境整備については課題が多いように見えるが、職員の評価が高く、古い校舎で問題が多いにもかかわらず、職員は奮闘していることが見て取れる。今後は、行政等の力も借りながら、生徒や保護者も納得するような環境整備に努めたい。

【対策】

- ①いじめの防止や早期発見、授業改善や家庭学習の充実、家庭でのクロムブックの活用など、生徒の啓発を深めているところではあるが、今後も生徒との日常の関わり、保護者等との連携を更に深めながら、課題に向き合って改善していきたい。
- ②教育環境の整備の優先順位の高いものから予算を申請し、可能な限り早めに整備を進めていく。

6 学校関係者評価

- ・「確かな学力」や「家庭学習の習慣」などの学習への取組は、生徒の「学習の有用感」（その学習が将来、何の役に立つのか）が理解できていないと、なかなか進んで学習する態度は育たないのではないだろうか。
- ・「環境整備」の項目における、「教育環境が充実し、整備されている。」の項目は、生徒や保護者に計画や実績が伝わっていないのではないかと。年間計画や進捗を周知することで、評価の数値も変わってくると思う。
- ・不登校の生徒への支援や、地域の行事等で活躍する生徒を地域ぐるみで育てていきたい。

7 対策等の見直し(学校関係者評価を受けて)

- ・学習内容が現在や将来の生徒にとって、どんな価値があるかの指導を盛り込むような教材研究ができるよう、校内研修の充実を今後も図っていききたい。
- ・施設設備の年間計画や、進捗状況をホームページ等で積極的に発信し、周知したい。
- ・本校は校舎が古く、改装歴も少ないため、生徒や保護者からの環境整備に関する評価が低い。今後も教育委員会と連携しながら、環境の整備を進めていきたい。
- ・学校行事等で培った力を地域の行事等でも生かせるように、総合的な学習の時間等における企画力や表現力、実践力を育成を今後も充実させたい。